



カナダヅル [学名 *Grus canadensis*]

分類／ツル目ツル科

分布／アラスカ、カナダ、アメリカ合衆国北部、中部、シベリア東北部などで繁殖し、さらにアメリカ合衆国南部、メキシコ、キューバなどでも繁殖します。日本には冬鳥としてまれに渡来します。鹿児島県出水市や北海道などで記録されることがあり、高知県では旧中村市内での記録があります。

すがた／全長約95cmの小形のツル。全身が緑がかった灰色で、頭頂部には赤いハート形の皮膚が見られます。繁殖期には体に泥を塗るため赤褐色に見えます。くちばしや足は黒い色をしています。

生態／カナダヅルは、ツル類では最も数が多く、20～30万羽いるといわれています。畑や水田に棲み、雑食性で、穀類や草の根のほか昆虫、カエルやヘビなどの小動物も食べます。「クルー、クルー」とよく通る声で鳴きます。

※参考：

鶴いこいの里（山口県周南市八代） <http://www.city.shunan.lg.jp/hp/turu/turu/turuall/tualfr03.html>

野鳥と教育～鳥を学ぼう～ <http://homepage1.nifty.com/bird-edu/bird/kanada.html>

つるの 雑記帳

地域みんなで連携作業

江ノ村地区 ねぐら・えさ場整備スタート！

江ノ村地区で、今年もねぐら・えさ場整備が始まりました。

6月26～27日には堤防からモミ撒きをする田へと続く道と畦道の草を刈り、田には水を入れました。7月2日からは江ノ村地区の方々と一緒に、ねぐらとして整備する田を耕うん機で耕しました。7月17日にはモミ撒きを実施！あいにくの雨模様でしたが、会員みんなで協力して、えさ場に作る田（約1.5ha）に70kgのモミを撒きました。また、ねぐら・えさ場を整備している田の周辺部は雑草でいっぱいなので、人力と重機によって、6月30日より順次草刈りを行っています。

江ノ村地区には、「農地・水・環境保全向上対策事業」（農林水産省事業）の一環で、農地保全や集落での共同作業を推進する地元農業者組織が発足しており、今年度からその皆さんが活動に参加してくれています。このように、当会の活動はしだいに地域に広まりつつあります。



江ノ村地区の皆さんとの協働で行った耕うん作業



モミ撒きの様子

ツルを見かけたら

お願い



四万十川（中筋川）流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail:naka10@cciweb.or.jp



四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.4 ●発行日／平成20年8月28日 ●発行／四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏（野生生物環境研究センター所長）よりご提供いただいております。

平成20年度総会 開催!!

平成20年6月24日、平成20年度総会が中村商工会館において開催されました。

はじめに、事務局（中村商工会議所）と澤田佳長氏（野生生物環境研究センター 所長）より平成19年度の事業概要が報告されました。

また、平成20年度事業計画も提示され、江ノ村地区の地元農業者組織と連携して、ねぐら・えさ場の整備を進めることなどが決まりました。国土交通省中村河川国道事務所の四万十川自然再生事業「ツルの里づくり」の実施状況や、四万十市農林水産課の「農地・水・環境保全向上対策事業」（農林水産省事業）に関する説明もあり、平成20年度はさまざまな主体と連携しながら、取り組みを進めていくことになりました。

このほか、今年度は役員改選の年にあたり、以下のとおり役員が決定しました。



総会には32名が参加

平成20年度事業計画
詳しくは中面で
ご紹介します！

四万十つるの里づくりの会 役員（任期2年）

会長	たわ ひろつぐ 多和 博嗣（四万十市中村地域区長会長）	再任
副会長	さだ すえき 佐田 末喜（中村商工会議所顧問）	新任
	にしお ただし 西尾 正（四万十川自然再生協議会長）	再任
監事	うえた こういち 植田 康一（四万十市旅館組合長）	再任
	おじま ふみお 小島 文雄（四万十市観光協会専務理事）	再任

※敬称略

平成19年度を ふり返って

（事務局より）

平成19年度は休耕田での取り組みをスタートさせた年であり、借り上げ契約などに時間を要しました。そのため、モミ撒きの時期がかなり遅れました。また、草刈り後、刈った草が腐ってガスが発生したことなどもあって、モミは思うように育たず、学ぶべきことの多い1年でした。

ツルは、平成18年度の倍近い125羽が確認されました。また、森沢・間地区の方々から、^{もりさわ はざま}「中山地区の『ツルの里』付近からツルが飛び立ったのを見た」といった連絡をもらいました。国土交通省と連携してみんなで整備した中山地区を、ツルたちが選んで利用してくれたのでしょう。「頑張って整備した甲斐があったね」とみんなで喜び合いました。